

## 企画展「二子山古墳と祈りの器」の開催について

中井 歩

### はじめに

埼玉県立さきたま史跡の博物館（以下、当館）では、令和5年7月15日から8月31日までの会期で、企画展「二子山古墳と祈りの器」を開催した。当館では近年、埼玉古墳群に関する資料を中心に、古墳時代を主なテーマとした企画展を開催してきた。令和5年度は、令和4年度末に二子山古墳の発掘調査報告書が刊行されたことから、二子山古墳の調査成果や出土資料を紹介するような展示を企画することとなった。

発掘調査報告書では、平成25、27～30年度に実施された発掘調査の成果がまとめられている。そのなかでも、平成29年度の調査では二子山古墳の墳丘造出しから大量の土器が出土し話題となった。そこで、本展示では二子山古墳の調査成果を紹介するとともに、墳丘造出しを含む古墳の各地点から出土する土器に注目することとした。古墳から出土する土器は何らかの祭祀に用いられと考えられることから、展示では「祈りの器」という用語を用い、埼玉古墳群やその他の古墳から出土した土器を展示した。さらに、器を持つ人物埴輪も合わせて展示することで、「祈りの器」や「祭祀」について考察を深める展示構成とした。

### 1 展示の概要

表1 令和5年度企画展「二子山古墳と祈りの器」概要

名称	令和5年度企画展「二子山古墳と祈りの器」	
会期	令和5年7月15日（土）～令和5年8月31日（木）	
開館日数	43日間 ※休館日（7月17日、8月14日を除く月曜日）5日間	
主催	埼玉県立さきたま史跡の博物館	
会場	埼玉県立さきたま史跡の博物館 企画展示室	
資料点数	164点（うち、115点は埼玉古墳群出土資料）	
入場者数	10,066人	
刊行物	チラシ（A4判）20,000枚 ポスター（B2判）500枚 展示図録（A4判）1,000冊	
関連事業	(1) さきたま講座 講師：中井 歩（当館学芸員） 「埼玉古墳群の墳丘造出しに関する一考察」 日時：令和5年8月26日（土） 午後1時30分から3時30分 場所：さきたま史跡の博物館 講堂 参加者数 41名	(2) 企画展展示解説 担当：当館学芸員 日時：令和5年7月23日（日）、8月6日（日）、 8月20日（日） 午後2時30分～3時 場所：さきたま史跡の博物館 講堂 参加者：7月23日（日） 8名 8月6日（日） 16名 8月20日（日） 17名

展示の概要については表1にまとめた。会期について、当館の企画展は従来秋期に開催されることが多く、令和4年度企画展「家形埴輪」も10月から11月に開催されていた。しかし、当館が令和5

年9月1日より改修工事による休館となったため、令和5年度企画展は夏期に開催し、休館前までの会期とすることとなった。

## 2 展示構成

### 全体構成

展示レイアウトは図1に示す。展示は以下の通り、全4章にプロローグとエピローグ、コラム3本を加えた構成とした。

- プロローグ 武蔵の覇者 二子山古墳
- 第1章 二子山古墳と祈りの器
  - コラム1 近年の調査で明らかになった二子山古墳の姿
- 第2章 埼玉古墳群と祈りの器—埼玉古墳群の墳丘造出し—
- 第3章 祈りの器が出土する場所
  - コラム2 器に入っていたものは？／コラム3 横穴式石室と黄泉国神話
- 第4章 埴輪に表現される祈りの器
- エピローグ 遺跡に残された「祈り」の痕跡

プロローグと第1章では二子山古墳出土の資料、第2章と第3章では埼玉古墳群を含む、古墳から出土する土器を中心とした。そして、第4章では器を持つ人物埴輪を展示した。

展示の目玉資料の1つである、二子山古墳の墳丘造出しから出土した土器は、展示室の中央に配置し、展示室に足を踏み入れた際に最も目を引くレイアウトとした。しかし、プロローグから第2章までの見学動線がやや煩雑となってしまったため、順路を示す看板を設置するなど対策を講じる必要があった。

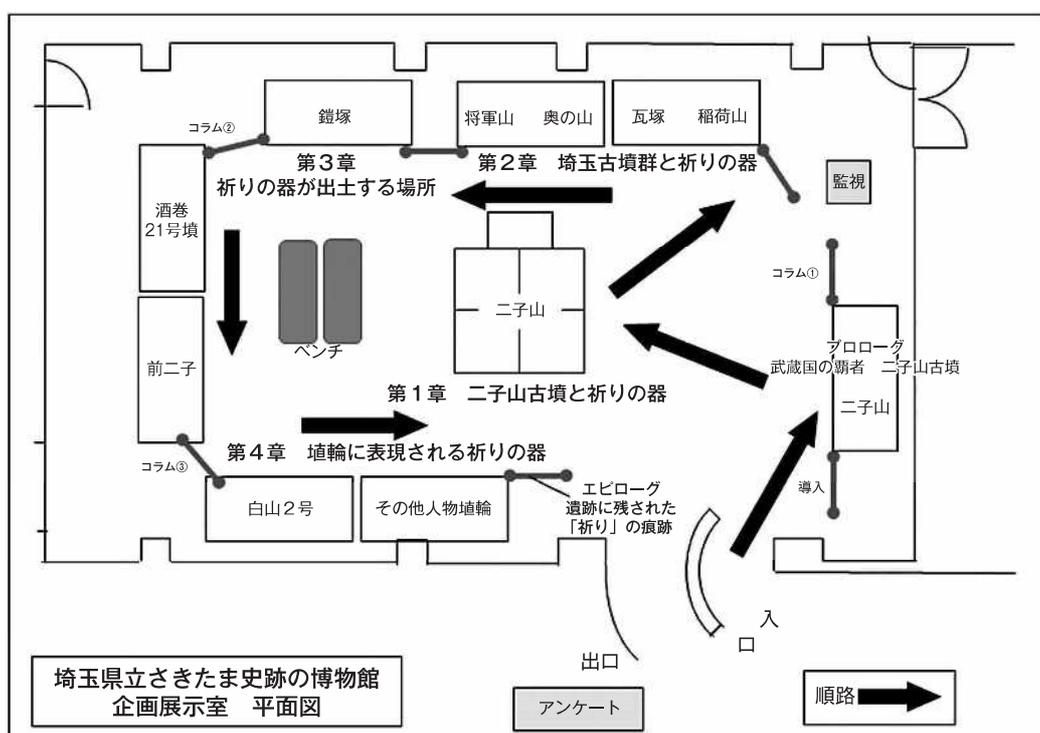


図1 令和5年度企画展「二子山古墳と祈りの器」レイアウト



写真1 展示風景

## プロローグ 武蔵の覇者 二子山古墳

### コラム1 近年の調査で明らかになった二子山古墳の姿

プロローグでは二子山古墳の発掘調査で出土した円筒埴輪を展示し、旧武蔵国最大の前方後円墳といわれる二子山古墳の概要を紹介した。円筒埴輪の大きさは墳丘の大きさに比例することから、埼玉古墳群最小の前方後円墳である愛宕山古墳の円筒埴輪も比較資料として展示した。また、二子山古墳からは線刻を施す円筒埴輪が複数出土している。なかでも、鹿と思われる動物の上に「×」印を施す円筒埴輪は、整理作業中に発見され話題となったことから、プロローグで紹介することとした。コラム1では、平成25、27～30年度に行った二子山古墳の発掘調査成果についてパネルで紹介した。



写真2 プロローグ

#### 《展示資料》

- ・行田市二子山古墳出土円筒埴輪
- ・行田市愛宕山古墳出土円筒埴輪

## 第1章 二子山古墳と祈りの器

第1章は本展示の軸となる章である。二子山古墳の墳丘造出しから出土した土器や埴輪を展示した。二子山古墳の墳丘造出しからは、土師器の高坏と須恵器の坏身・坏蓋が大量に出土している。土師器の高坏は胎土や形状の違いから、白色系グループと赤色系グループに分けられている。土師器の白色系の高坏・赤色系の高坏と、須恵器の坏身・坏蓋はそれぞれ20点前後確認されており、これらは墳丘造出しにほぼ同数置かれていたと考えられる。そのため、展示に際しても各資料がほぼ同数になるように配置した。また、須恵器の坏身・坏蓋には意図的に孔がつけられた痕跡があり、孔をあけた際の破片も出土している。穿孔は祭祀行為の一環であると考えられるため、穿孔された破片も合わせて展示を行った。

二子山古墳の墳丘造出しから出土した土師器の高坏や須恵器の坏身・坏蓋は発掘調査当時から話題となっており、発掘調査の現地説明会や令和4年度の当館でのスポット展示でも展示されてきた。しかし、整理作業の進捗によってその他の器種も一定数出土していたことが明らかとなり、さらに線刻をもつ円筒埴輪も墳丘造出し周辺から集中して出土していることも判明した。これらの成果を覗きケース1台を使って紹介した。

### 《展示資料》

- ・行田市二子山古墳出土 土師器 高坏、坏
- ・行田市二子山古墳出土 須恵器 坏蓋、坏身、器台、提瓶、甕
- ・行田市二子山古墳出土 線刻をもつ円筒埴輪



写真3 第1章①



写真4 第1章②



写真5 第1章③

## 第2章 埼玉古墳群と祈りの器—埼玉古墳群の墳丘造出し—

第2章では埼玉古墳群の各前方後円墳から出土した資料を紹介した。第1章で取り扱った二子山古墳の墳丘造出しの様相と比較するため、各古墳の墳丘造出しから出土した資料を展示した。埼玉古墳群では、稲荷山古墳、二子山古墳、瓦塚古墳、奥の山古墳、將軍山古墳、鉄砲山古墳で墳丘造出しの発掘調査が行われている。本章では二子山古墳と鉄砲山古墳を除く4基の古墳の墳丘造出しから出土した資料を展示した。埼玉古墳群の墳丘造出しからは土器や埴輪が多く出土しているが、土師器は二子山古墳以外ではあまり出土しない、形象埴輪の出土は奥の山古墳以降に限られるなど、出土遺物の様相は各古墳や時期で異なっている。その様子を観察できるように、古墳の築造時期で順番に並べて展示した。

### 《展示資料》

- ・行田市稲荷山古墳出土 須恵器 有蓋高坏、有蓋脚付短頸壺、甗
- ・行田市稲荷山古墳出土 土師器 甗、坏
- ・行田市瓦塚古墳出土 須恵器 高坏形器台、高坏、提瓶、甗
- ・行田市瓦塚古墳出土 土師器 鉢、小型壺
- ・行田市奥の山古墳出土 須恵器 装飾付壺、高坏形器台、高坏、坏蓋
- ・行田市奥の山古墳出土 形象埴輪片
- ・行田市將軍山古墳出土 須恵器 甗、甗
- ・行田市將軍山古墳出土 土師器 坏
- ・行田市將軍山古墳出土 靱形埴輪



写真6 第2章①



写真7 第2章②



写真8 第2章③

### 第3章 祈りの器が出土する場所

第3章では古墳の墳丘造出し以外の場所から出土する土器に着目し、各場所で行われた祭祀について考える展示とした。なお、前章までは埼玉古墳群から出土した資料を展示したが、第3章では埼玉古墳群以外の古墳から出土した資料を紹介している。熊谷市鎧塚古墳、行田市酒巻21号墳、群馬県前橋市前二子古墳の3つの古墳を取り上げた。鎧塚古墳では後円部の2か所の地点から土器がまとまって出土している。2か所の地点から出土する土器は、内容は類似するもののやや時期差があることが指摘されており、類似した内容の祭祀を繰り返し執り行った可能性が示唆される。酒巻21号墳では横穴式石室入口前の広場から土器が集中して出土している。横穴式石室の中ではなく、入口に並べられた土器は、石室内と外界をつなぐような祭祀に用いられたとも推測される。前二子古墳では鏡や馬具などとともに多くの土器が横穴式石室に副葬されていた。前述の2例と異なり、被葬者に対して供えられた土器であると考えられる。このように、3つの古墳はそれぞれ土器が集中して出土する場所が異なっており、前章までの墳丘造出しと合わせて、「祈りの器」の多様性を示した。

#### 《展示資料》

- ・熊谷市鎧塚古墳出土 須恵器 高坏形器台、高坏（県指定）
- ・熊谷市鎧塚古墳出土 土師器 高坏（県指定）
- ・行田市酒巻21号墳出土 須恵器 壺、甕、高坏、甗
- ・行田市酒巻21号墳出土 土師器 坏
- ・群馬県前橋市前二子古墳出土 須恵器 小像付筒形器台、高坏形器台、提瓶、甗、直口壺
- ・群馬県前橋市前二子古墳出土 土師器 高坏、台付直口壺



写真9 第3章①



写真10 第3章②



写真11 第3章③

## コラム2 器に入っていたものは？

## コラム3 横穴式石室と黄泉国神話

第3章の間で2つのコラムを紹介した。コラム2では古墳から出土する土器の内容物に関する研究をパネルで紹介した。土器のなかにハマグリなどの貝類が残っていた事例などを紹介することで、展示されている土器の使われ方について考える手がかりとなることを目的とした。

コラム3では日本書紀や古事記に描かれている、イザナギノミコトが亡き妻であるイザナミノミコトを追って黄泉国を訪れる話をパネルで紹介した。この黄泉国神話には黄泉国のカマドで煮炊きしたものを食べる「ヨモツヘガイ」と、黄泉国と現世を石で塞ぎ「コトドワタシ」をするエピソードがある。これらは副葬された土器に貝類などが入っていた事例や横穴式石室の閉塞状況と関連付けて考えられることがあり、今回展示した資料について考える手がかり

の一つとして紹介した。一方、8世紀に完成した史料の記述を6世紀代の考古資料と直接関連付けることに対して慎重であるべきという意見もあることを同時に紹介し、記紀神話と考古資料との関係性の難しさを示した。

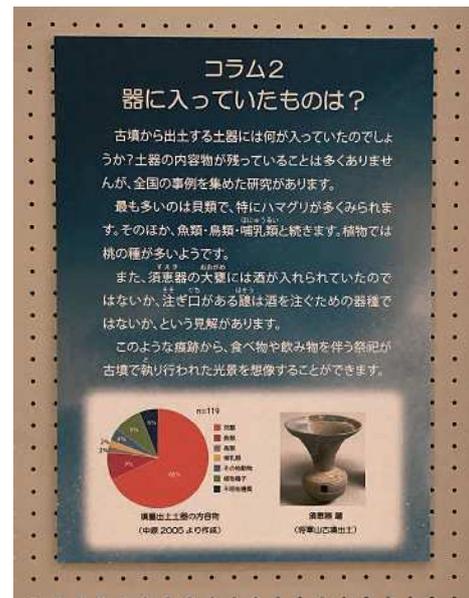


写真12 コラム2

## 第4章 埴輪に表現される祈りの器

第4章では器を持つ人物埴輪を展示し、第3章まで注目してきた古墳から出土する土器がどのように用いられたのかを考える手がかりとした。立見ケース2台を用い、1台には深谷市の白山遺跡2号墳から出土した4体の女性埴輪を展示した。両掌を上下に合わせ柏手を打つような仕草をする埴輪、臑を両手で捧げ持つ埴輪、片手で壺を掲げ持つ埴輪、頭の上に壺を載せる埴輪である。柏手を打つ女性埴輪は他の埴輪よりも幅広の腰帯を締めており、この4体の中心的な人物と考えられている。3人は器を持ち、残りの1人は柏手を打つリーダー的な人物という構成は何らかの祭祀の様子を表現している可能性が高く、祭祀のなかで器がどのように用いられたのかを考察するうえで大変興味深い資料である。装身具などまで細かに表現されており、本展示の目玉資料の1つとして、ポスターやチラシに写真を掲載した。

もう1台のケースには埼玉古墳群や県内の古墳から出土した、器を持つ人物埴輪を集めた。器を持つ人物埴輪には「仕草」と「器の種類」にいくつかのパターンが見られるが、今回展示した資料は「両手で坏や壺を持つ」埴輪と「頭に壺を載せる」埴輪が多くなった。埼玉古墳群では稲荷山古墳と奥の山古墳から出土した形象埴輪に器を持つ表現が認められた。稲荷山古墳出土資料の1つは、輪状の粘土を腕に見立て、粘土紐を張り付けて指を表現するという独特な技法を有している。今回集めた他の埴輪には見られない技法であり、稲荷山古墳の形象埴輪の系譜を考える手がかりとなるかもしれない。

### 《展示資料》

- ・ 深谷市白山遺跡2号墳出土 人物埴輪 (市指定)
- ・ 深谷市白山遺跡12号墳出土 人物埴輪 (市指定)
- ・ 東松山市代正寺9号墳出土 人物埴輪

- ・鴻巣市新屋敷遺跡 B 区第 15 号墳出土 人物埴輪
- ・鴻巣市新屋敷遺跡 C 区第 60 号墳出土 人物埴輪
- ・寄居町小前田 11 号墳出土 人物埴輪
- ・行田市稲荷山古墳出土 人物埴輪
- ・行田市奥の山古墳出土 人物埴輪



写真 13 第 4 章①



写真 14 第 4 章②



写真 15 第 4 章③

### エピローグ 遺跡に残された「祈り」の痕跡

パネル 1 枚であるが、エピローグを設けた。本展示の目的の一つである、古墳から出土する「祈りの器」や古墳における「祭祀」について、出土遺物や遺跡のような考古資料から考察することの難しさを紹介するとともに、調査研究の積み重ねの重要性を説明するパネルを作成した。

### 3 アンケート結果

本展示ではアンケートを設置した。これまで、当館では展示に特化したアンケートは行っておらず、博物館と古墳公園の内容を一括した「アドバイスシート」というものを利用していた。しかし、アドバイスシートでは展示に関する項目はごく一部にとどまるため、今年度より企画展のみを対象とするアンケートを行うこととした。アンケートは企画展示室出口の前に設置した。会期中、70 枚のアンケートを回収した。アンケート結果から、①観覧者の様相、②広報手段について、③展示の満足度・理解度、④今後期待する展示について考察する。

### ①観覧者の様相

住まいは県内と県外がおおよそ半数である。県外は東京や神奈川などの関東近郊が多いが、大阪や京都などの遠方からの来館もみられた。年代は15歳以下の回答が最も多い。しかし、保護者に促されて回答する児童の姿が度々目撃されており、そのような状況がアンケート結果に影響している可能性もある。

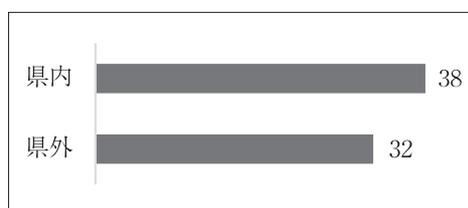


図2 アンケート（お住まい）

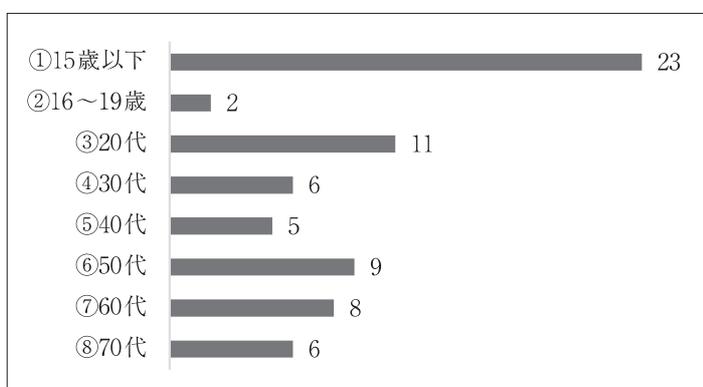


図3 アンケート（年代）

### ②広報手段について

広報手段としては、従来通りポスター・チラシを各所に配布し、当館ホームページやTwitter（当時）を活用した。アンケート結果としては、「来館したらやっていた」という回答が最も多いが、次に多いのは「ポスター・チラシ」である。ポスター・チラシの配布は展示情報の周知に有効であり、今後も継続すべき手段と考える。紙媒体以外の手段としては「当館ホームページ」と「当館Twitter」を活用した。企画展を「当館ホームページ」で知ったという回答は多く、紙媒体以外では最も有効な手段である。一方、「当館Twitter」で展示を知ったという回答は少なかった。ただし、会期中にTwitterで発信した企画展関連の情報については各回一定のリアクションが得られており、展示に関する補助的な情報を発信するためには有効な手段であるといえる。

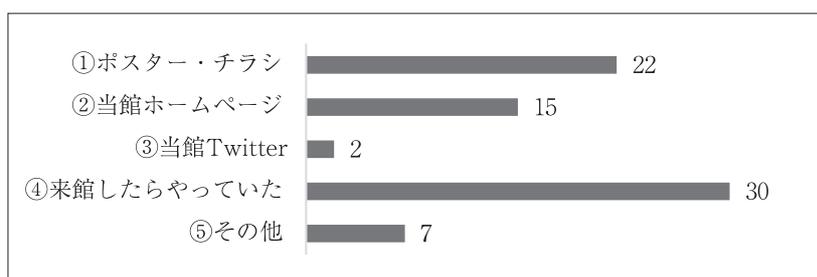


図4 アンケート（R5企画展を知ったきっかけ）

### ③展示の満足度・理解度

展示の満足度・理解度については「楽しめた／おむね楽しめた」、「よくわかった／だいたいわかった」がそれぞれ90%を占めている。個別のコメントも肯定的なものが多く、全体的な満足度・理解度は高かったと思われる。会期中に学芸員による展示解説を3回、関連の講座を1回実施したが、各回ともに参加者の満足度は高く、展示の理解も促進されたとの意見がみられた。

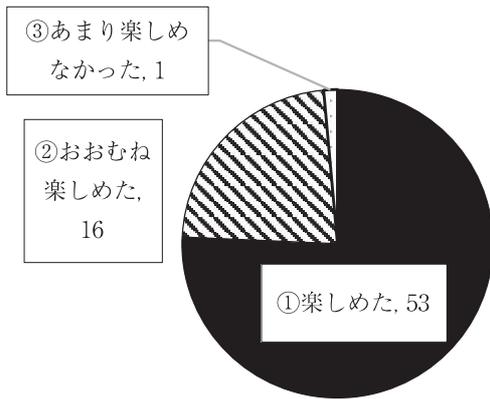


図5 アンケート（企画展の満足度）

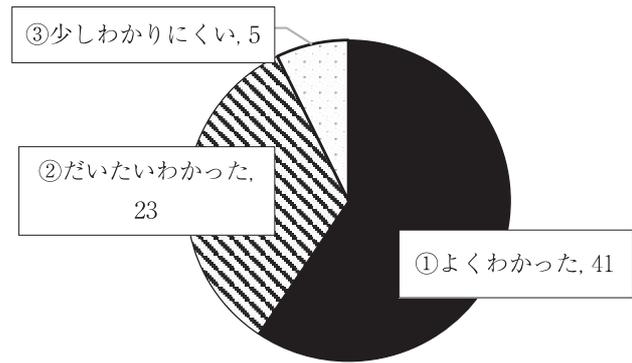


図6 アンケート（企画展の理解度）

#### ④今後期待する展示

最後に、今後期待する展示については、「古墳時代の展示」「最新出土品展」がほぼ同数となり、その次に「埼玉古墳群の展示」がくる。「古墳時代の展示」については、近隣都道府県の資料を含めた展示や、近畿地方との比較展示を望む意見も見られた。また、埴輪の展示を望む意見も多くみられた。「最新出土品展」に対しては、発掘調査報告書が刊行されたばかりの資料や出土したばかりの資料など、考古学に関する「最新情報」を得られるような展示が期待されているようである。

一方、「古墳時代以外の時代の展示」を期待する回答はそこまで多くなく、当館に対しては「埼玉県外の資料も含めた古墳時代に関する展示」「最新の考古学に関する展示」が期待されていることが分かる。来年度以降の展示計画の参考としたい。

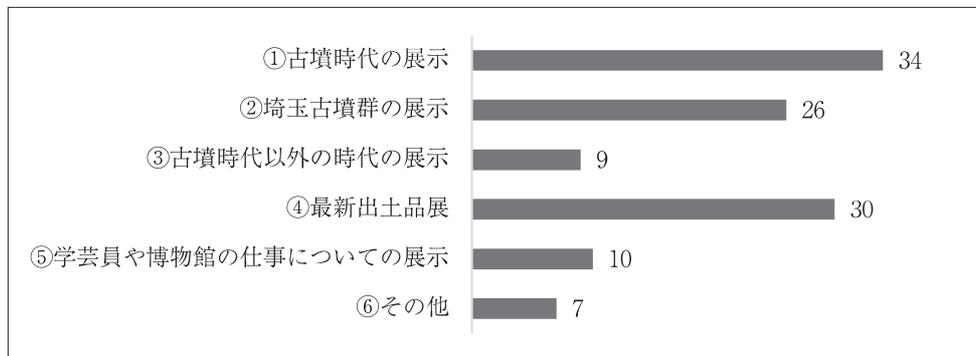


図7 アンケート（今後期待する展示）

## おわりに

今回の展示は二子山古墳をはじめとする、古墳から出土する土器を中心的な資料としたものであった。夏休み期間で子どもが多い時期ということもあり、担当者としては少々地味な展示になってしまわないかという懸念があったが、最終的には高い満足度・理解度を得られた。土器がメインであるものの、第4章で埴輪を展示したり、土器のなかでも小像が付く特徴的な土器を展示したりしたことも効果的であったと思われる。実際に埴輪の仕草を真似して写真を撮ったり、小像をじっくりと観察している観覧者がしばしばみられた。また、今回は埼玉古墳群から出土した資料を多く展示したことも特徴の一つとなった。埼玉古墳群の継続的な発掘調査で重要な成果が上がっているにも関わらず、当館の常設スペースである国宝展示室の空間的な制約から、それらすべてを展示することは難しい。今後も、借用資料だけでなく埼玉古墳群の資料も活用できるような企画展を考えていきたい。